

地域ケア会議

鹿児島市地域包括支援センター 谷山中央

【計画】

作成担当者： 長友 智奈美

開催日時	平成30年09月12日 13:30 ~ 15:00	開催場所	谷山市民会館
参加者	谷山中央圏域 居宅介護支援事業所：13人、谷山中央圏域 通所リハビリ事業所：13人、地域包括支援センター谷山中央職員：6人、地域包括支援センター職員		
	総数 32人		
内容	テーマ	居宅支援事業所と通所リハビリテーション事業所における連携課題について	
	目的	通所リハビリの特色を生かしたケアプランによる自立支援を目指すための事例検討	
	概要	検討項目 ① グループワーク内容、目的の説明 ② 事例検討（グループワーク） ③ 意見交換	

【結果】

開催日時	平成30年09月12日 13:30 ~ 15:00	開催場所	谷山市民会館
参加者	谷山中央圏域 居宅介護支援事業所：11人、谷山中央圏域 通所リハビリ事業所：13人、地域包括支援センター谷山中央職員：6人、地域包括支援センター職員		
	総数 30人		
内容	① 今回のグループワーク内容説明 ・H30年度からの法改正に伴い利用者への支援内容や加算関係などにより、連携を図る必要がある状況となっている。デイケアが入浴目的になっていないか？リハビリで行っていることを、実際自宅の生活の中で行うことができるのか？デイケアの加算が加算内容の通りにサービスの提供ができているのか？などの意見を各事例を通して、専門性を生かした計画、また連携の必要性に気づけることが目的。 ② 事例検討 ・5グループに分かれ、各グループごとに通所リハビリ、居宅介護支援事業所から1事例ずつ挙げ、実際の事例を通しグループ内で各専門職からみた気づきなどの意見交換実施。 ③ 意見交換 ④ 成果 ・谷山中央圏域の居宅介護支援事業所13事業所中11事業所の参加。また通所リハビリテーション事業所は13事業所中全ての事業所が参加し、同専門職同士の横のつながりの機会にもなった。 ・各専門職からみた意見の違いやズレはあり、それを理解しながら利用者の自立支援にむけたチームで取り組む支援の方向性を見出すきっかけにもなったのではないかと。 ・各専門職の歩み寄りではできたのではないかと。		
今後の課題など	・全ての利用者を「卒業」という形に持っていくには、時間や環境整備を要する。 ・通所リハビリ事業所を「卒業」した後の受け皿や社会資源が必要。なければその資源を開発していく必要もある。 ・各専門職の歩み寄りではできたが、今後具体的なネットワーク構築までにはいたらなかった。 ・今回の貴重な意見を、各事業所が今後の支援取組みの工夫や各専門職の連携に繋がるように情報開示を行っていく必要がある。 ・ネットワーク構築に繋がる、さらなる専門職との連携拡大が図れるための機会作りも必要。		